

すまいるNEWS

2026春号

フクダハウジング株式会社
新潟県新潟市中央区関新3丁目2番4号
フリーダイヤル：0120-974-699

社長メッセージ



上機嫌でいこう！
数年前から、意識して「上機嫌」を心がけています。私だけでなく、全社員にもそうあって欲しいと思っていますので、最近ではリーダー会議の場でもこの話をする事ができます。ただ実際は、不機嫌な態度や言動、あるいは約束事を守らない社員に対しては、ついイラっとしてしまうこともあり、恥ずかしながら私自身が365日いつも上機嫌であるというわけではありません。

私が上機嫌という言葉意識したきっかけは、ハーバード大学の人気講師ショーン・エイカー氏の著書『幸福優位7つの法則』です。著者は、厳しい競争環境でも前向きな精神状態を作り上げて抜きん出ている人と、プレッシャーに負けて行き詰る人との違いはどこにあるのかに強い関心を持ちました。

そして、ハーバード大生や著名企業のプロフェッショナルへの実証実験を通して彼が学んだことは、「成功を目指してやみくもに努力するのではなく、人は幸福感や気分が前向きであるときに頭もよく働き、やる気も生じ、結果的に物事がうまくいく」という事実でした。

私はかつて「伝える・伝わる」ことに興味を持ち、説明力・言語学を積極的に学んだ時期がありますが、そのときに講師の言葉として現在も心に残っているのは、『正論より

も、機嫌が勝つ』ということでした。正しいことを怒りながら教える先生と、常に穏やかに授業する先生とは、後者の方が圧倒的に伝わることはすでに分かっています。

そして、そもそも嫌いな先生の授業は、気持ちが乗らないし頭に残らないというのは私も実体験としてよく理解できますから、私のビジネス手帳には（誰かのパクリですが）自らへの戒めの言葉として「不機嫌はコスト、上機嫌はスキル」と太字で書いてあります。

最後に、上機嫌に関連した本の中で、私からおススメをご紹介します。タイトルは『運転者』。喜多川泰著。2022年のAmazon売れ筋ランキング日本文学部門の第1位となったベストセラーですから、お読みになった方も多いと思います。

この小説は、タクシー運転手と乗客との会話で成り立っています。上機嫌の価値を私が説明するよりも、まずはこの本を読んでください。サクサク読めて、納得感があって、こんなにすぐに行動したくなる本は珍しいと思います。特に、弊社の社員には絶対に読んでほしい。本当に人生が好転するか、みんなで一緒にトライしましょう。あとは、この文章が印刷配布された日から、おそらく家族を含め全社員が「私の機嫌」に注目してくるはずなので、今はそれが一番の心配事です。そんな視線にイラっとするかも！

代表取締役社長 木津広美

リノベ

お客様の家 完成見学会

新潟市中央区にて、マンションリノベーションの完成見学会を5月に開催します。今回ご覧いただける住まいは、素材感や質感にこだわりながら、日常をより豊かにするための工夫を随所に盛り込んだ住空間です。実際の空間をご覧いただくことで、リノベーションの可能性を具体的に感じていただけるはずです。会場の詳細や見学日程については、リノベーション営業課までお気軽にお問い合わせください。

お問合せ 0120-974-699 リノベーション営業課

- 【見学会見どころポイント】
- ・ゲストを心地よく迎える、ゆとりあるホール空間
 - ・和×オーガニックが調和するデザイン(畳小上がりと縦格子)
 - ・エコカラットや造作家具など統一感を生むインテリア演出



注文住宅

NEW MODEL HOUSE Akamichi 04 —「暮らしの余白」

新しいモデルハウスが、2026年4月18日(土)、19日(日)によいよグランドオープンいたします！

モデルハウスのコンセプトは、「暮らしの余白」。都市の喧騒から一步退き、静けさと緑が調和する上質な空間へ。目に映るのは、計算された余白と、中庭がもたらす穏やかな時間。幹線道路に面しながらも、まるで奥まった私邸のような静けさを実現する一。

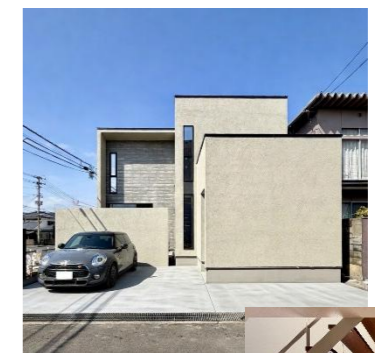
この住まいは、建物の内と外、暮らしと自然を“視線と空間の抜け”によってつなぎ、コンパクトながらも奥行きと広がりを感じさせます。リビングは庭を向き、生活の中心を形づくる。アートウォールやプランターで外部からの視線を適度に遮りながら、内側に豊かな



解放感を宿す設計。市街地にありながら、まるで“ひとつの風景”を住まいに取り込んだような、静謐で洗練された暮らしをご提案いたします。

ぜひ現地で、フクダハウジングの家づくりをご体感ください！ご来場お待ちしております。

詳細・来場予約はこちら



◀外観デザイン
グランドアートウォールが印象的な外観デザイン。塗り壁のスタイリッシュな佇まいです。

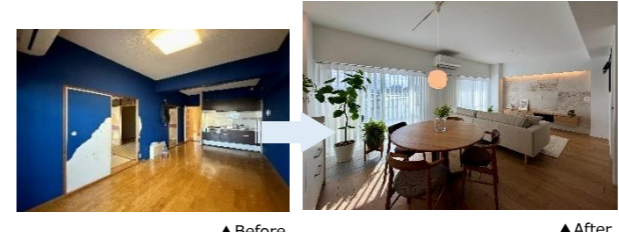
▶LDK
コンパクトながらも開放感あるLDKは、外観同様にグレーをベースにした落ち着いた室内。中庭に緑が癒しを与える。



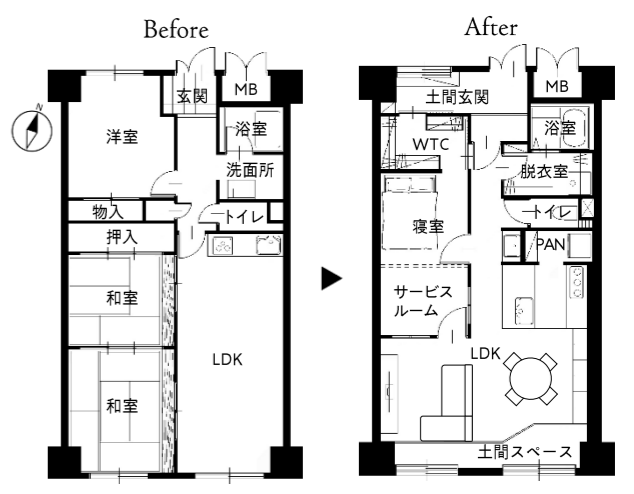
リノベ

暮らしを一新する、川端町のモデルルーム

前号でもお伝えしたマンションリノベモデルルーム。新潟市中央区・コープ野村川端町のマンション一室を、ホワイトをベースに石・木の質感を活かしたホテルライクな空間へと大胆にフルリノベーションしました。もともと3LDKだった間取りを、開放感ある1LDK(希望により2LDKも可)に変更し、日常に心地よさと彩りを添える住まいに仕上がっています。6階から望む信濃川のリバービューと洗練されたデザインが、暮らしを“特別な時間”へと導きます。



3月末より、このモデルルームの販売をスタートしました。ご興味がある方は、ぜひ現地をご覧ください。モデルルームは、予約制で5月末まで公開予定です。



来場予約



＼忙しい毎日を変える！／

無理なく始める朝活のおすすめ5選

私事ですが、年初からフルタイムで働くことになり、この生活リズムに未だ慣れません!(笑)さらに、卒業・入学のイベントも重なり、日々のスケジュール管理が追いつかず、大事なことをうっかり忘れてしまうことも…。

そんな自分の生活パターンを変えるべく、本気で朝活にチャレンジしてみようと思います。今回は朝活のメリットをまとめてみました。皆さんも一緒にいかがですか？



《2人の子育て中》
松岡もチャレンジ!

5分～10分でサクッとできることから始めるのが、継続のコツ

①温かい飲み物で「完全なひとり時間」を味わう (10分)

起きたらまず歯を磨いて、口の中の細菌をリセット。そのあとに、しっかり水分補給をすることが大切です。家族が起きてくる前や、本格的に1日が動き出す前に、白湯や温かい飲み物をゆっくり淹れて、ひと息つく時間をつくります。



毎日が慌ただしく過ぎていく中で、「誰にも邪魔されない自分のための時間」を持つことは、何よりのストレス解消になり、日々の活力にもつながります。なお、コーヒーは少し時間をあけてから飲むのがおすすめです。



②1日のスケジュールと「やること」の整理 (5分)

手帳やスマホのアプリを開き、今日やるべきタスクや予定を確認。頭の中にあるモヤモヤを一度書き出すことで、「大事なことを忘れてしまうかも」という不安や焦りがやわらぎ、落ち着いた気持ちで一日をスタートすることができます。



③お天気が良ければ朝散歩! (10分)

朝散歩で、1日が変わります。朝の5～10分、外に出て軽く歩くだけでも十分です。朝の光を浴びながら体を動かすことで、体内時計が整い、子どもも大人もスッキリと目覚めやすくなります。



また、朝日を浴びることで“幸せホルモン”と呼ばれるセロトニンの分泌が促され、気分が前向きになりやすいのも大きなポイントです。忙しい朝の中でも心に少し余裕が生まれ、1日のスタートがぐっと心地よくなります。



④軽いストレッチで体をリセットする (5分)

深呼吸をしながら、首や肩、アキレス腱など、凝り固まりやすい部分をゆっくりと伸ばしていきます。新しい生活リズムの中で、知らず知らずのうちに溜まった体の緊張を優しくほぐし、自律神経を整えることで、すっきりと気持ちよく目覚めることができます。



⑤気になっていた本や記事を少しだけ読む (10分)

読みかけの本を数ページだけ読む、あるいは気になっていたニュースやコラムに目を通します。短い時間でも「自分のためのインプットができた」という達成感が得られ、自然と自己肯定感も高まります。



まずは週に1～2日、どれか1つ試すだけでも立派な「朝活」です。ご自身のペースで、心地よい朝の時間を探してみてくださいね。

家具をひとつ変えただけで、暮らしが軽くなる。

—K様邸が気づかせてくれた“空間の余白”の話

「広いはずなのに、どこか落ち着かない」。新築から数年が経ったK様ご夫婦が抱えていたのは、LDKの“なんとなくの違和感”でした。家族で過ごす時間は大切にしたいのに、仕事終わりにリビングへ入ると気持ちがふわっと落ち着かない。間取りを変えるほどではないけれど、何かがかしくりこまない。そんな日々が続いていたそうです。

原因は、意外にも“ソファの存在感”でした。以前のソファは座り心地が良い反面、背もたれが高く、リビングの中心で壁のように立ち上がっていました。家具が悪いわけではないものの、空間全体の視線を遮り、広さの印象を小さくしていたのです。

そこでK様を選んだのが、背の低い、軽やかなラインのソファ。色もこれまでの濃色から、周囲の木質とも相性の良いライトグレーに変更しました。置き換えた瞬間、ご夫婦は「部屋が息をしたみたい」と感じたそうです。視線が窓まで抜け、天井の高さが改めて感じられるようになり、同じ部屋とは思えないほどの開放感が生まれました。



さらに、ローテーブルを省き、小さめのサイドテーブルにしたことで、リビングの動線が自然と整理され、足元に“余白”が誕生。通り抜けやすくなっただけでなく、部屋全体が軽やかに感じられるようになりました。家具の点数は減っていないのに、空間の息遣いが変わったように感じられる。そんな不思議な変化があったといいます。

「大がかりな模様替えをしなくても、暮らしはこんなに変わるんですね」そう笑うK様の言葉は、住まいづくりの本質をそっと教えてくれます。ひとつ変えるだけで、部屋も気持ちも前向きに。日々の暮らしにちょっとした“余白”をつくるヒントが、ここにあります。



さとう まなみ
佐藤 愛
インテリア
コーディネーター



フクダハウジング株式会社
〒951-8141 新潟市中央区関新3丁目2番4号

＼いいね!やフォローお待ちしております!／



お気軽にお問い合わせください
0120-974-699

連載コラム

わたしの日常 vol.18



こいけ りょうじ
小池 椋司

スタッフの休日や趣味のことなど、徒然なるままに。パーソナルな部分をちょこっとご紹介します。あの人の意外な一面が垣間見られるかも?!第18回目は、営業課の小池です。

建築部 新築営業課の小池と申します。

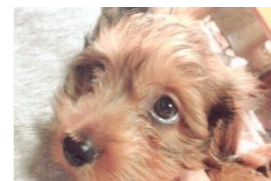
今回は、実家で暮らす大切な愛犬「マロン」をご紹介します!茶色い毛並みが特徴で、妹がそのまま“マロン”と名付けました。ミックス犬で現在10歳。すっかりシニア期に入りましたが、今も家族の癒し存在です。

迎えたきっかけですが、以前は「ナナ」というミニチュアダックスフントを飼っており、病気で亡くした悲しみから「しばらくはペットを飼わない」と家族で決めていました。

そんなある週末、兄・私・妹の休みが珍しくそろい、3人で出掛けた帰りになんとなく立ち寄ったペットショップでマロンと出会いました。妹が「ナナに似てる!」と目を輝かせて抱きしめ、離れようとしなかった姿を見て、私たちも自然と心が動かされました。悲しい未来を想像するより、マロンと一緒に楽しく暮らす日々の方が何倍も鮮明に浮かび、その日に迎える決断をしました。

「ちゃんとお世話する!散歩も毎日行くからね!」と言っていた妹は、その後すぐに一人暮らしを始め、さらに福島へ嫁いでいきました。

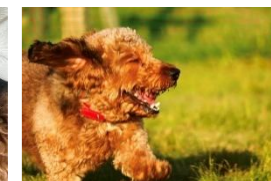
あれから10年。体型や声は年齢とともに変わりましたが、甘えん坊のかわいさは変わらず、むしろ愛おしさは増すばかりです。今では実家へ帰るたび、思いっきり甘えさせてあげて、逆に私の方がたくさん癒しと元気をもらっています。毎回の帰省で、心まで満たされる大切な存在です。



▲10年前のマロン



▲今のマロン



▲ドッグランでの一枚

編集後記

すまいるNEWS春号をお読みいただき、ありがとうございました。先日、群馬の水上温泉と伊香保温泉に行ってきました。春先の晴れ間のおかげで、露天風呂に入ると少しひんやりとした風があたり、その温度差が心地よくてつい長湯に。湯船につかりながらぼんやり空を眺める時間は、日常からふっと離れられる特別な瞬間でした。忙しい日が続くとついつい後回しにしてしまいがちですが、やっぱり“何もしない時間”は大切ですね。おかげで頭も体もリセットできました。佐藤 愛